

教育委員会だより

拳ノ川小学校 地域に信頼される 学校を目指して

校長 松本 治彦

はじめに

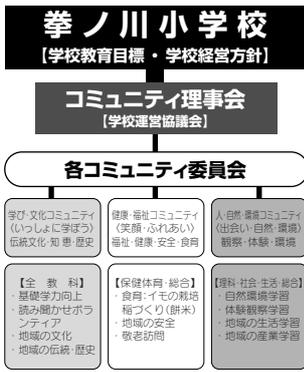
本年度、本校は黒潮町教育委員会から「学校運営協議会」の指定を受け、学校運営をより地域に開き、地域や保護者の皆さんとともに、学校教育目標「『確かな学力』と『生きる力』を身につけ、生き生きと躍動する拳の子どもの育成」を目指して取り組みを進めています。

学校運営協議会の取り組み

この学校運営協議会は、学校運営に関して黒潮町教育委員会および校長の権限と責任のもと、保護者および地域住民などの学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者および地域住民との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むことを目的として設置さ

れたものです。実際には、年度の始めに、地域住民・保護者・学校関係者などで組織する「学校運営協議会」において、本年度の教育目標および学校経営計画・教育課程の編成・組織編成に関すること・学校予算などについて学校長が提起する基本方針に基づいて、それぞれの立場での意見を出し合い、審議し、承認を得て、その年度の学校運営をスタートさせる仕組みになっています。さらに、地域住民・保護者が計画の段階から教育活動に参画し、地域の人材発掘や教材化など拳ノ川ならではの豊かな教育活動の創造を目指してテーマごとに3つの

コミュニティ委員会を組織し、年間を通して活動を行っています。



伝統文化「そばまき踊り」復活

◆学び・文化コミュニティ



地域安全マップ作り

◆健康・福祉コミュニティ



自然体験「かずらなし」採り

◆人・自然・環境コミュニティ

基礎学力向上への取り組みについて

基礎基本の確実な定着をめざして、基礎学力タイム（読書・計算・漢字）各10分間を校時表に位置づけて日々継続的に取り組みを進めながら、本年度は、放課後の加力指導の時間確保や夏休みに全学年で加力補習にも取り組みました。

さらに、すべての学力のもととなる豊かな語彙の獲得に向け、国語辞典を全学年に向け、漢字辞典を4年生以上に持たせて常時活用し心がけた取り組みも行っています。

また、校内研究においては、学校の命は「授業」であるという観点のもと、校長以下全員が授業公開をおこない、さらに積極的に外部講師を招いて授業研究を行っています。

昨年度のCRT（到達度把握検査）結果については、下表のように国語・算数ともに全校平均値は、全国の平均を上回る状況にあります。また、学年によってそれぞれ課題があり、基本的な生活習慣の確立なども含め、日々の取り組みの充実を図りながら改善に努めています。

平成18年度のCRTの結果

国語 領域別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
話すこと・聞くこと	1.04	1.06	1.01	1.07	0.95	1.05	1.03
書くこと	0.97	0.91	1.01	1.23	1.03	1.01	1.03
読むこと	0.89	1.05	1.05	1.15	1.00	1.02	1.03
言語事項	1.07	0.95	0.96	1.11	1.12	0.94	1.03
算数 領域別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
数と計算	0.97	0.98	1.17	1.11	0.93	1.02	1.03
量と測定	0.98	1.01	1.16	1.20	1.03	0.99	1.06
図形	1.03	1.06	1.09	0.97	0.97	0.98	1.02
数量関係			1.35	1.20	0.75	1.05	1.09

※全国得点率を「1」とした時の得点率を表しています。

また「意欲をひきだす授業づくり」を目指して日々の授業を大切にし、取り組んできた結果「関心・意欲・態度」のポイントがここ3年間で国語（0.94→1.09）算数（0.85→1.08）へと向上してきています。漢字力については、年度末に実施した各学年の新出漢字の書きの定着度が全校平均で「94.3%」と高い定着率を示したものの、日々の漢字使用に課題が残りました。

上川口小学校

主体的に活動できる
児童の育成を目指して

校長 渡会 好史

年度初めに2名、そして10月に1名の転入生を迎え、現在の上川口小学校の児童数は44となっております。学級数は6、職員数は9で昨年と同じ体制です。

年度初めの職員会議で、本校の児童の実態について意見交換をし、本年度の取り組みについての確認をしました。

*素直で明るい子が多い。

*学習にも真面目に取り組むことができる。

*他学年との交流も盛んで、お互いを支え合うつながりもできている。

意見交換では嬉しい実態が、たくさん報告されました。



みんなで力を合わせた一輪車

平成18年度のCRTの結果

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
算数	1.09	1.10	1.12	1.12	1.14	1.08
国語	1.08	1.10	1.16	1.04	1.15	1.05

※全国得点率を「1」とした時の得点率を表しています。

この子どもたちに学力を保障し、学ぶ意欲をつけるためには、各学年の発達段階に応じた基礎基本となる学力を確実につけ、教科内容の確実な定着を図ることが肝要と考え、取り組みを続けています。

◆今年度の取り組み

基本的な学力の育成

本校の児童数は44、前述したように明るく素直な子どもたちです。

学力の面に目を向けると、平成18年度CRT(到達度把握検査)結果を見ると、国語科・算数科ともに全国並みか、全国より高い状況となっております。

上記の結果を踏まえ、研究の柱とする教科は国語科に変更するものの、今年度も基本的には昨年度の方針を継続することとしました。また、学力の根本を支える「基本的な生活習慣」の定着にも視点をあて取り組み中で「学ぶ喜びを感じ、意欲を持って行動できる児童の育成」に努めたいと考えて「主体的に活動できる児童の育成」を主なテーマとして実践を続けています。

基本的な学力育成のための3つの柱

1、チャレンジタイム

清掃活動と5校時の間の10分間「数と計算」の領域を中心に、水曜日を除く毎日、児童一人ひとりの進度に応じてプリント学習を続けています。

2、くじらつ子タイム

高学年は月曜日、低学年は火曜日を学力向上の時間と設定し、文章問題を中心に習熟を図っています。

3、学習の手引き

児童が自力解決できる手助けとなるよう、国語科と算数科において「一人学習の手引き」を作成し、毎年改良しながら活用をしています。

基本的な生活習慣の定着

基本的な学力をしっかりと身につけるためには基本的な生活習慣を身につけることが欠かせないと考え、保護者との連携のもと、基本的な生活習慣を身につけるための取り組みを継続しています。

①生活点検の実施

職員会の場で定期的に結果を全職員で確かめ、今後の取り組みを確認し合い、指導に生かしています。

②先生を招いての授業

黒潮町教育研究所の酒井先生においでいただき、低学年は「朝ご飯の大切さ」、高学年は「早寝早起き」を柱に授業をしていただきました。普段の授業と違い少し緊張したものの、子どもたちは目を輝かせて楽しく勉強していました。

③講師招聘研修の開催

基本的な生活習慣のより確かな定着のため、西部教育事務所より堅田先生をお招きし、職員研修を実施しました。

私たち教職員にとっても有意義な講演でしたが、今後機会を作り保護者や児童に直接お話ししていただけたらとも考えています。

豊かな心情の育成

本校では、知識面や技能面の育成のみならず、豊かな心情を備え地域を愛する子に育てたいと、総合的な時間を活用して、①国際理解②生命尊重③地域を知るという3本柱で、全学年の児童が学習を深めています。

昨年度からは、その取り組みをさらに深め発展させようとして高知県の指定事業「豊かな体験活動推進事業」を受けて取り組みを続けています。

この事業では「故郷の良さを実感し、故郷を愛する心情を育てる」ことや「豊かな社会性と人間性を育成する」ことを目標として、生産活動や奉仕活動、そして地域の方々と交流を継続的に進めています。



蛸川地区老人クラブの皆さんとの交流